ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	No.1(staNo.30+3.6m)	調査位置						北　緯	36 ° 44 ’ 49.3000 ”
発 注 機 関	栃木県矢板土木事務所			調査期間	2008-11-04 ～ 2008-11-08			東　経	139 ° 47 ’ 59.4000 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	252.03 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °	使用機種	
総 掘 進 長	9.20 m							試 錐 機	ハンマー落下用具
								エンジン	ポ ン プ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	250.83	1.20	1.20		細砂 (FS)	暗褐	緩い		粒径不均一な細砂が主体である 上部0.2mまでは腐植物が混じる φ5～10mmの円,亜円礫が混入する		
2 3 4	247.03	3.80	5.00		玉石混じり砂礫 (GS-B)	暗灰	密な		φ10～50mm程度の円,亜円礫を主体とする φ150～900mm(コア長L=50～300mmの3倍程度として推定)の玉石が連続混入 礫間は粗砂により充填され細粒分の混入は少ない 孔壁崩壊し易い 全体にルーズな堆積状態		11/05 4.65
5 6 7	244.53	2.50	7.50		砂礫 (GS)	暗灰	非常に密な		φ10～50mm程度の円,亜円礫を主体とする φ200mm(コア長L=70mmの3倍程度として推定)の玉石が点在している 礫間は砂と粘土により充填されている 5.9～6.2m間は全漏水する 6.3m以深は粘土分が多い 全体に締まって堆積している		
8 9	242.83	1.70	9.20		玉石混じり砂礫 (GS-B)	暗灰	非常に密な		φ10～50mm程度の円,亜円礫を主体とする φ150～600mm(コア長L=50～200mmの3倍程度として推定)の玉石が連続混入 礫間は砂と粘土により充填されている 7.0～7.7m間全漏水し，局所的に崩壊激しい 全体に締まって堆積している		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	8	36	46／30	46
1.45					
2.15	14	15	9	38／30	38
2.45					
3.00	50			50／10	>50
3.10					
4.00	47	3／2		50／12	>50
4.12					
5.00	50			50／10	>50
5.10					
6.00	50／9			50／9	>50
6.09					
7.15	22	19	9／2	50／22	>50
7.37					
8.15	50			50／10	>50
8.25					
9.15	50／5			50／5	>50
9.20					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/04
						11/05
						11/06
						11/07
						11/08